

◆奥出雲の循環型農業のシステム



◆循環型農業が生み出す農産物

たたら製鉄とともに育まれた農業は、仁多米、奥出雲和牛、しいたけなどのきのこ類、そばなど高品質な農産物を育み、これらの4品目は町の農業産出額の約9割を占めています。



仁多米

ミネラル豊富な水、堆肥を施用した土、恵まれた気候条件によっておいしいお米が生産され、地域ブランド米「仁多米」として高く評価を受けています。



奥出雲和牛

かつて、たたら製鉄では鉄などを運搬するために多くの和牛が飼育されました。優秀な血統を引き継ぐ和牛の改良によって肉用牛の生産に転換された後も、和牛の産地として継承されています。



しいたけなどのきのこ類

森林の広葉樹は約30年周期で伐採され、燃料の木炭として利用されてきましたが、木炭から石油へとエネルギー源が替わった後、しいたけなどの原木などに利用され、しいたけ、まいたけなどが栽培されています。

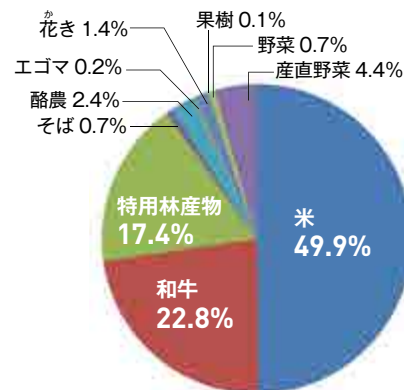


出雲そば

森林の伐採跡地や砂鉄採掘跡地で、在来の小ソバが栽培されてきました。粒は小さいが風味が良い「横田小ソバ」が栽培されています。「出雲そば」は、「わんこそば」(岩手)「戸隠そば」(長野)と並んで日本三大そばの一つになっています。

奥出雲町の農業産出額 (令和2年度)

たたら製鉄を由来とする農産物4品目の農業産出額比率 (推定値)



(奥出雲町 JA 実績ほかより算出)



奥出雲和牛の産地として継承



在来種「横田小ソバ」の花

考えよう!

現在の棚田は、かつては何が
行われていた場所かな?



3

愛媛県南予地域

日本農業遺産

「愛媛・南予の柑橘農業システム」

全国トップクラスの生産量と日本一の品目数を誇る愛媛県の柑橘栽培において、南予地域がその生産量の7割を占めています。特に宇和海岸では、複雑に入り組んだ海岸沿いの急傾斜な山の斜面につくられた段々畑に、厳しい自然条件を克服するための独自の知恵と工夫があります。



(認定地／宇和島市、八幡浜市、
西予市、伊方町、愛南町)



◆地域の地形と気候

日照時間が長く、降水量が少ない瀬戸内の気候は柑橘類^{かんきつ}の栽培に適しています。特にこの地域は温暖な気候に加え、リアス海岸の急傾斜地であることから水はけがよく、海からの日光の照り返しなども含め日照にも恵まれているため、高品質な柑橘類^{かんきつ}の栽培に非常に適した条件が揃っています。

◆日本一の品目数

かつては愛媛県で栽培される柑橘類は温州みかんが中心でした。しかし、和歌山県や静岡県などの他の産地との競争や、1990年代にアメリカ合衆国からオレンジの輸入が自由化されるようになり、安いオレンジが市場に出回ると温州みかんの出荷は大きく減少しました。そこで愛媛県では品種改良を重ね、「愛媛果試第28号（商標：^{かんべい}紅まどんな[®]）」や「甘平」など温州みかんとは収穫時期や味の異なる^{かんきつ}柑橘類を生産することで他の産地との差別化を図っています。

豆知識

愛媛県のみかん栽培

愛媛県でのみかんの栽培は、江戸時代終わり頃から始まったといわれています。温暖で晴れの日が多くみかん栽培に適した環境であったため、栽培農家がどんどん増え、1968年には全国1位の生産量になりました。



近年は、新たなブランド^{かんきつ}柑橘類も生み出され、現在、200もの品種が誕生しています。

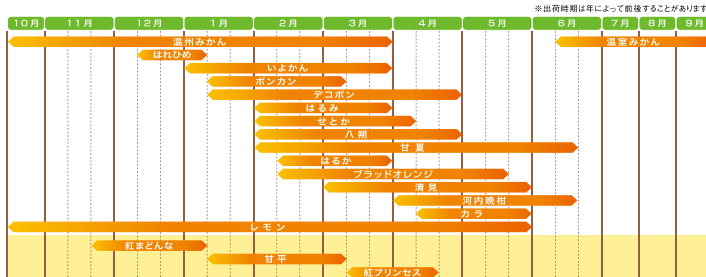
かんきつ
柑橘類の主要県の生産状況（令和 3 年産）

県名	中晩相類 (t) ちゅうばんしやうるい	温州みかん (t) ぶしやう	合計 (t)	中晩相割合 (%) ちゅうばんしやうるい
愛媛県	78,520	127,800	206,320	38.1%
うち南予 なんよ	43,634	110,291	153,925	28.3%
和歌山県	39,327	147,800	187,127	21.0%
熊本県	31,872	90,000	121,872	26.2%
静岡県	4,080	99,700	103,780	3.9%
全国	273,365	749,000	1,022,365	26.7%

(農林水産省及び愛媛県調べ)

※「^{ちゅうばんかん}中晩柑」は、年明け以降に出回る温州みかん以外の^{かんきつ}柑橘の総称。

愛媛県で生産される^{かんきつ}柑橘類の出荷カレンダー



(愛媛のかんきつ 21 推進協議会)



どんな
かんきつ
柑橘類かな？

豆知識

新しい品種が開発されるまで

交配してつくられた種を苗木に育てたら専用の台木に接ぎ木して、果実を収穫します。できた果実は多くの試験を経て、国に承認されて初めて品種登録されます。スタートからなんと15年ほどもかかるのです。



◆独自の柑橘農業システム～特異な地形条件下での高い持続可能性～

リアス海岸の急傾斜地を利用するために、独自の工夫があります。

段々畑と石垣

段々畑とその周辺に石垣をつくることで土壌の流出を防いだり、作業の足場になったりと、農作業の負担を軽減します。



防風垣

段々畑にスギなどの木を植えて防風垣をつくり、台風や季節風に運ばれる塩水からみかんを守っています。農家は、木の手入れも欠かしません。



石垣は、様々な生きものたちの生息場所にもなっています。石垣は植物にとっては厳しい環境ですが、それゆえに外来種の侵入が阻まれ、イヌノフグリなど絶滅危惧種の貴重な生息環境にもなっています。またタテハチョウの仲間（ウラギンスジヒョウモンなど）は冬に日光浴をする場として石垣を利用しています。伝統的な石垣は生物多様性を守る重要な役割も果たしています。

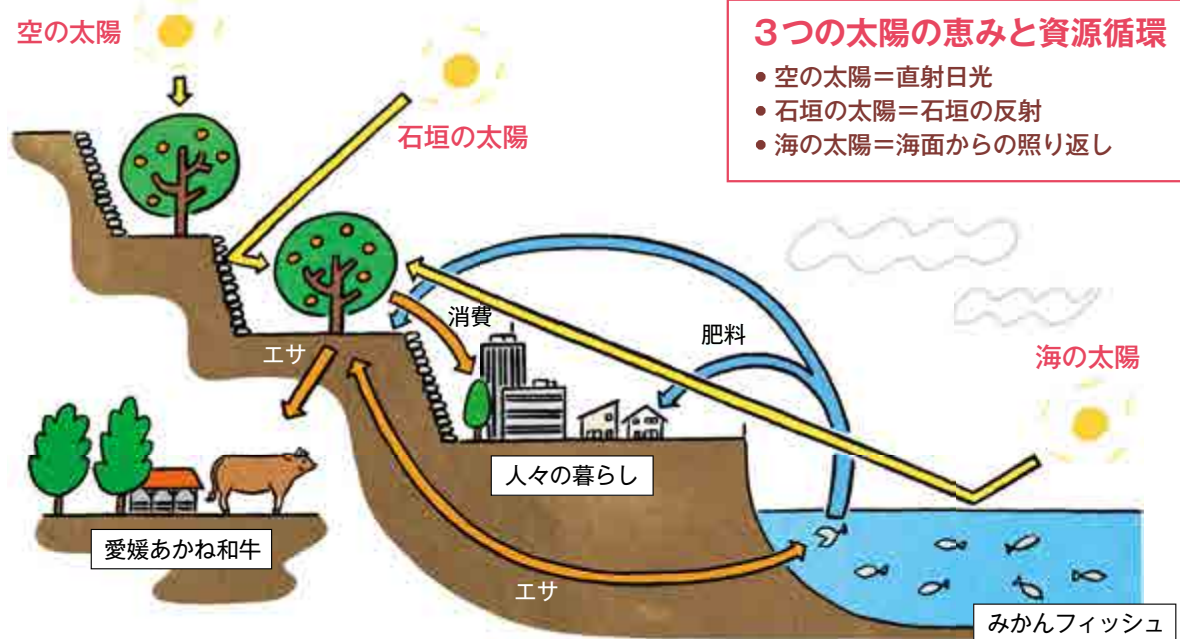


ウラギンスジヒョウモン



イヌノフグリ

斜面につくられた段々畑は、太陽の光を効率的に使うこともできます。



この地域では、柑橘の生産を中心に、漁業や畜産業と連携した資源循環型の農業が確立されています。また、ジュースを絞った後の皮などを牛に食べさせたり、ブリなど養殖魚のエサにすることで、付加価値の高い商品の開発にもつながっています。



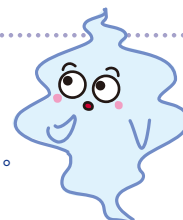
みかんフィッシュ



愛媛あかね和牛

考えよう！

人が農業をするためにつくった伝統的な段々畑の石垣は、生物多様性を守る重要な役割を果たしているよ。その具体例をまとめてみよう。



愛媛県南予地域

日本農業遺産

「愛媛・南予の柑橘農業システム」

【特産品】

詳しく見てみよう!



甘平

愛媛県オリジナルの品種



紅まどんな®

島根県奥出雲地域

「たたら製鉄に由来する
奥出雲の資源循環型農業」

日本農業遺産

詳しく見てみよう!



徳島県にし阿波地域

「にし阿波の傾斜地農耕システム」

世界農業遺産

日本農業遺産

詳しく見てみよう!

皮をむいたそばの実を
乾燥させて米に見立て
た“そば米”。

徳島県西部の山間部のにし阿波地域は、標高が 100 ～ 900m の陽当たりが良い場所に集落や農地が点在し、夏は涼しく、冬は雪も降る。また、場所によっては斜度 40 度にもなる急傾斜地で、段々畑のような水平面をつくらずに傾斜地のまま農耕する。畑に草地で採取したススキやチガヤなどをすき込むことで風雨などによる土の流出を最小限に抑え、そばなどの雑穀や伝統野菜、山菜、果樹など、少量多品目を組み合わせる複合経営により、山間地の環境に適応してきた。これが 400 年以上にもわたり、継承されている。

